



「やさしい日本語」を外国人の地域参画と協働のエンジンに

港区・港区国際交流協会

「やさしい日本語」を外国人の地域参画と協働のエンジンに

東京都港区には、2020年10月1日現在、約1万9千人の外国人が在住しています。その数は、港区総人口の7.3%であり、国籍は128か国に及びます。国内の駐日大使館の半数以上は港区におかれ、外資系企業が集積しています。

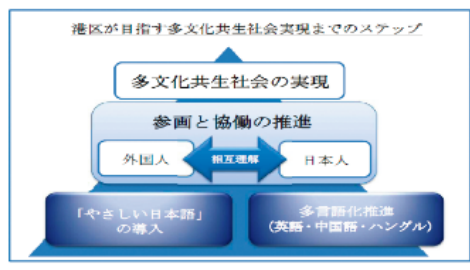
区では、多文化共生社会の推進に向けて、地域社会の共通言語となる重要なコミュニケーションツールの一つとして、やさしい日本語を導入しています。さらに、外国人との交流促進として、一般財団法人港区国際交流協会と連携し「みなとにほんご友だちの会」を運営しています。これらの取組について、区役所地域振興課国際化推進係の名取さんと港区国際交流協会の平野さんにお聞きしました。



左から、港区地域振興課国際化推進係の名取さんと港区国際交流協会の平野さん。

港区では主要な文書を日本語、英語、中国語、ハングルで公開していますが、外国人の母語全てに対応することはとてもできません。外国人の地域参画と協働を推進するには、言葉の壁を乗り越える必要があります。そこで始めたのが、やさしい日本語を通じて日本人と外国人の相互の歩み寄りを進める取組でした。

2017年度、まずは区内向けに外国人の地域参画と協働のためのやさしい日本語マニュアルを作成し、やさしい日本語の書き方や話し方のルール、やさしい日本語によって実現する多文化共生社会について示しました。



＜公文書における「やさしい日本語」について＞
公文書においても、文章表現の改善の取組を更に推進するとともに、国際化や情報化の急速な進捗に対応できる「やさしい日本語」をより一層の実装する必要があります。総務課が作成した「実践！やさしい日本語による公文書」には分かりやすく親しみのある文章表現のための 趣旨的指針が書かれています。分かりやすい日本語の文章は、港区ホームページにおける自動翻訳の誤訳を防ぐ効果もありますので、ぜひご覧ください。

＜港区職員が「やさしい日本語」を使用するうえでの心構え＞
これまで紹介した「やさしい日本語」のルールは、あくまで一般的なもの、生まれ育った地域や生活状況によって、外国人の日本語の理解度は異なります。例えば、漢字を使うことで生まれ育ったため、漢字が多い文章を読むことができる外国人もいれば、日本に長く住み、日本語の日常会話は問題なくできても、読み書きは難しく感じる外国人もいます。
相手の日本語理解度がわからない場合には、まずは、職員自ら声をかけ、「やさしい日本語」を使用して、外国人と積極的なコミュニケーションをとりましょう。話しながら、外国人の日本語理解度がわかってきますので、まずは日本人と同様、「あったかマナー」に基づき、笑顔を忘れずに話しやすい雰囲気づくりを心がけてください。外国人と話し、話している内容を理解できていないと感じたら、よりゆっくり話し、やさしい言葉を使いましょう。
「やさしい日本語」を通じた、外国人と日本人の歩み寄り、お互いの理解を進め、外国人の地域への参画と協働を推進し、多文化共生社会を実現していきます。
職員も、窓口や電話対応はもちろん、ちらしやパンフレット等の印刷物にも「やさしい日本語」を使用することで、その歩み寄りを支えることができます。このマニュアルを使用し、実際の業務の様々な場面で「やさしい日本語」を使ってみてください。

マニュアルには、港区職員がやさしい日本語を活用する上での心構え、書き方やルールなどが記載されています。
出典：「港区「やさしい日本語」マニュアル～外国人の地域参画と協働のために～」

もう一つの取組が、みなとにほんご友だちの会です。実施主体は港区国際交流協会、2018年度に活動を始めました。

「やさしい日本語」の「学び」と「実践」を地域交流の中で

みなとにほんご友だちの会では、「やさしい日本語を使った外国人とのコミュニケーション講座」（以下、「日本語交流講座」と「1対1の会話パートナー活動」、グループ活動、日本語サロンなど、地域での外国人と日本人の交流促進を図っています。

「日本語交流講座」は、外国人と交流する上で必要な心構えや知識を習得する講座で、18歳以上の日本人が対象です。多文化共生や相互理解のためのコミュニケーション、やさしい日本語に関する講義を受け、相手に配慮した話し方・聞き方を、グループワークを通して学びます。

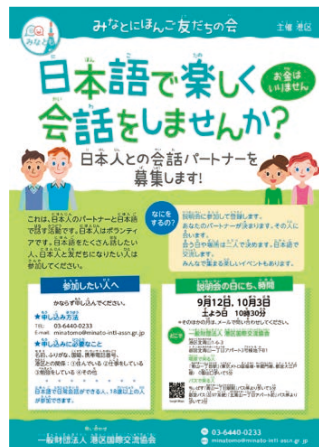
「会話パートナー活動」は、実際に外国人と日本人が1対1の会話パートナーとなって、やさしい日本語を使って交流する活動です。日本語交流講座の修了者と参加希望の外国人がそれぞれ会話パートナーに登録します。

専任コーディネーターが日本人と外国人のマッチングを行い、半年間、パートナー同士でやさしい日本語を使ったコミュニケーションや地域活動を自由に行います。

会話パートナー活動に参加した外国人からは、「知らない土地で頼りになる人ができて嬉しかった」「自分が話すペースに合わせて待っていてくれて少しずつ話せた」「外国人はお客さんでなく、地域の住民として暮らせた気がする」という声が寄せられています。

また日本人からは「経済や趣味などいろいろな話ができて楽しさが増えた」「パートナーとしての登録期間が終了した後も、ひとりの友人として交流を続けたい」「一生懸命に日本語を覚えようとする姿、日本の社会に入ろうとする姿、こちらが励まされた」などのコメントがありました。

「やさしい日本語を実際に使うと、相手にとって何が『やさしい』のかを考えるのがとても大切なことだと実感します。相手を思って伝えようとするれば、国は違って人も同じだと共感できます。この取組は、国籍や言葉の違いを超えて人々が同じ地域で暮らすという活動なのだと思えます」（平野さん）



2018年度～20年度で、日本語交流講座を5回、パートナー活動を2期開催。3年間で累計約210人の日本人が講座に参加し、パートナー活動で日本人との交流を希望する外国人の登録は約40か国200人になりました。

多文化共生社会を目指す鍵は「環境の整備」「交流の場の拡大」「学習の支援」



港区では、3年に1回、区在住外国人に対する意識調査（「港区国際化に関する実態調査」）を行っています。2019年度の調査では、コミュニケーションにおいてやさしい日本語を希望する外国人は全体の55.6%と半数を超え、特に、日本在住期間が3年未満だと約75%とかなり多いことが分かりました。また、地域活動への参加については、参加したいと考えている人が59.8%いるのに対し、実際に参加したのは6.9%と、ギャップがありました。

この調査結果を踏まえ、今後の主な取組として、やさしい日本語の環境整備、やさしい日本語による交流機会の拡大、外国人の基礎的な日本語学習支援の3つの方向を計画しています。

やさしい日本語の環境整備では、2020年10月から運用を始めたやさしい日本語の専用ホームページを充実させながら、「暮らしのガイド」やチラシなど配布物や掲示物にもやさしい日本語による情報提供の充実を図る予定です。

さらに、庁内に向けては、あらゆる職層の職員がやさしい日本語の研修を受け、やさしい日本語が活用されるよう進めていきます。



やさしい日本語の専用ホームページ。分かち書きや漢字への振り仮名の記載をするほか、難しい単語は辞書の説明を閲覧できるようになっています。



やさしい日本語による交流機会の拡大では、まちづくりや子育て・教育、防災など、さまざまな地域活動に外国人が参加しやすい環境を整えるために、地域で活動されている日本人にやさしい日本語の有益性を知ってもらうための研修を実施しています。

そして、日本語学習支援では、日本語がほとんど分からない外国人向けに基礎日本語講座を開き、生活に必要な情報がとれるよう支援を行う予定です。

多くの人に「やさしい日本語」マインドを

「やさしい日本語を学び、実際に使ってみると、相手にとって何が『やさしい』のかを推し量るのがとても難しいことに気付かされました。やさしい日本語は、単なる言葉の置き換えテクニックではありません。やさしい日本語を使うとき、相手の立場に思いを寄せて、伝わるように言葉を選んでいくマインドが働いています。このマインドは外国人だけでなく、子どもから年配の方、障害者など、地域にいる全ての人たちに通じるものです」(名取さん)

「考え方やふるまいといった文化の違いを知るたびにワクワク・ドキドキしたり困ったりすることも含め、人と人がつながって、この港区という地域で暮らしていくのだという『やさ日マインド』を、いろいろな形で届けていきたいと考えています」(平野さん)

相手の立場に歩み寄り、互いの文化を認め、共に生きていく。多文化共生社会の実現に向けて、港区の取組は続いていきます。

港区役所が発行する「みんなと会食マナーガイド」(やさしい日本語版)

港区役所が発行した～港区での新しい会食スタイルの定着に向けて～「みんなと会食マナーガイド」。

区民が安全に、安心して港区のお店で飲食を楽しむために、取り組んでほしいことや気をつけてほしいことをやさしい日本語でまとめています。

<https://www.city.minato.tokyo.jp/kouhou/yobou.html#a01>

頑張って取り組んで欲しいこと (Please try your best to do these things)

- 食べる直前(まえ)の手洗いや手指消毒を心がけましょう。(なるべく人数での間隔が望ましいです。)
- 1つのテーブルに座る人数を少なくしましょう。(なるべく人数での間隔が望ましいです。)
- 感染症は、隣の方と距離を取ったり、はず向かいに座るなど飛沫が飛ばない工夫をしましょう。
- 咳やくしゃみをする時は、人に向けてしないようにしましょう。
- 乾杯や会話は控えめの声で行いましょう。
- マスクを外す時は内側を折り畳み、ポケットやかばん、専用ケースなどにしまいましょう。
- マスクを外して会話する時は、扇子やうちわなどを口にあてて飛沫が飛びにくいようにしましょう。
- 大皿料理は、特定の人(かき)が先に小皿に取り分けましょう。(トングや箸などの共有は避けましょう。)

やらないように気をつけてほしいこと (Please be careful not to do these things)

- 体調が悪いときの参加は絶対に避けましょう。
- 長時間の会食は避けましょう。(最初に、会食の終わりの時間を決めましょう。)
- 小さいテーブルを囲んで、向かい合うことは避けましょう。
- 大きな声での乾杯や会話は避けましょう。(大きな声は飛沫がたぐくみ飛びます)
- マスクを外して、テーブルの上に直接置くことは避けましょう。
- 携帯電話などを取り出し、顔を近づけてみんなで覗き込むことや回したりすることは避けましょう。

みなさんに やってほしいこと (Things everyone needs to do)

- 食べる前(まえ)に 手を洗(あら)う。(Wash hands before eating.)
- 食べる前に 手が洗えないとき 手の消毒(しょうどく)をする。(When unable to wash hands before eating, disinfect them.)
- 隣(となり)の人と1m 離(はな)れて 座(すわ)る。(Sit one meter away from the next person.)
- 前(まえ)の人と 向(む)かい合(あ)って 座(すわ)らない。(Don't sit facing the person in front of you.)
- 大きな声(こゑ)で話(はな)さない。(Do not talk in a loud voice.)
- トングやサービングカトラリーは 一緒(いっしょ)に 使(つか)わない。(Do not share tongs and serving cutlery.)

注(ちゅうい) 注意(ちゅうい) すること (Necessary Precautions)

- マスクを 外(はず)した時(とき)
 - ① テーブルの上に 置(お)かない。
 - ② 咳(せき)や くしゃみ(くしゃみ)を 人(ひと)に 向(む)けて しない。
 - ③ 内側(うちがわ)を 折(ひ)き 畳(たた)み、ポケットや かばん、専用(せんよう) ケース(ケース)に しま(しま)う。
- マスクを 外(はず)して 話(はな)す時(とき)は 扇子(せんす)や うちわ(うちわ)など(な)を 口(くち)に あてて 話(はな)す。(When talking without wearing a mask, put a Japanese fan or similar object over your mouth.)
- 他(ほか)の人(ひと)と 顔(かお)を 近(ちか)く 近づ(ちか)げない。(Do not get close to another person's face.)

× やってはいけないこと! Things NOT to do

- 熱(ねつ) や 咳(せき) がある時(とき)は 参加(さんか) しない。(Do not come when you have a fever or a cough.)

◆ マスクをつけていれば ◆ If you are wearing a mask ◆

隣(となり)の人(ひと)の 近く(ちか)くに 座(すわ)っても 大(だい)丈夫(じょうぶ)! (You will be okay even if you sit near another person.)
前(まえ)の人(ひと)と 向(む)かい合(あ)って 座(すわ)っても 大(だい)丈夫(じょうぶ)! (You will be okay even if you sit facing another person.)

通常の日本語版(写真上)とやさしい日本語版(写真下)の違い。言葉をやさしい日本語に言い換える、漢字にルビをふるなどで呼びかけを行っています。

【取材日: 2021年1月27日】

